

何でも読もう会

書物名	『あひびき』 ツルゲーネフ 二葉亭四迷訳	開催 日時	2021.2.1	推薦	首藤
巻・章	全編		Zoom	出席者	6名
<p>明治初期、二葉亭四迷が訳して日本の自然主義文学、叙景文学に大きな影響を与え、日本近代文学の先駆けとなった一書。それまでの日本文学は風景描写でも和歌の世界をベースに叙述されてきた。男女関係も伝統的な構図に囚われてきた。この一冊が画期となって明治文学が始まった。独歩、藤村などに与えた影響は大きく、独歩の『武蔵野』、藤村の『千曲川のスケッチ』などの名作を誕生させた。</p> <p>従来 of 自然描写では樹木といっても梅、桜など、花が主、木々は従、せいぜい松、紅葉などが気を吐く程度だった。この書ではロシア大地の中で、そこに生うる樺や白楊（はこやなぎ）の大樹林とその中の自然が重要な背景物である。そこで交わされる若い男女の物語である。昭和期の軽井沢文学（『風立ちぬ』など）もこの一環であろう。</p> <p>読もう会では、文中に江戸言葉が処々残る中で、気持ちのいい自然描写がフレッシュだとの意見があった。一方、田舎娘の言葉を訳すのに江戸の下町娘の言葉を援用しているのはご愛敬とも。</p>					